

津島市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定 第3回西小学校区懇談会 開催報告

新たな「地域福祉計画・地域福祉活動計画」を確認し 今後の活動を展望

■テーマ：「西小学校区における地区懇談会の成果と計画（案）を確認し
今後の地域福祉活動について話し合おう」

■日時：平成28年2月8日（月）10：00～11：30 ■場所：津島市総合保健福祉センター 福祉活動室

■参加者：計13名（参加者7名、事務局6名）

【開会、趣旨説明】

事務局の福祉課より、本日の会議の趣旨や検討テーマ、スケジュールについて確認しました。

今回は、新たに策定した「第2期津島市地域福祉計画・第3期津島市地域福祉活動計画」の概要を報告するとともに、西小学校区の「地区懇談会」の開催結果について説明しました。

続いて、平成28年度からの地域福祉活動の進め方と、そのために地区懇談会を継続することやコミュニティ推進協議会における体制づくりについて意見交換することを説明しました。



【「津島市地域福祉計画・津島市地域福祉活動計画」の概要説明】

「第2期津島市地域福祉計画・第3期津島市地域福祉活動計画」の、基本理念、基本目標と基本施策、重点的な取組み、計画の推進方法について、概要を説明しました。

また、計画書の参考資料として添付する「地区懇談会結果概要」を説明しました。

これに基づき、西小学校区における地域福祉課題を解決するための取組みアイデアを振り返って、今後の活動や体制づくりなどについて意見交換を行いました。

【今後の福祉活動のあり方や、体制づくり、地区懇談会の継続について】

今後の福祉活動については、この小学校区で特に重点的に進めるべきことについて意見を交換しました。体制づくりについては、地区社会福祉協議会の設立を目指すことについて、また、そのための土壌づくりとしてコミュニティ推進協議会において福祉部会を設置すること、あるいは平成27年度に3回開催した地区懇談会を今後も続けることについて話し合いました。あわせて、平成28年度に開催を目指す第1回の地区懇談会の時期についても検討しました。

意見交換の結果は、裏面のとおりです。

今後の福祉活動のあり方や、それを進めるための体制づくり、地区懇談会の継続

今後、取り組むべき福祉活動について

- ・メンバー、活動、交流が発展しない、若い人を引っ張り出す必要がある。
- ・ウォークラリーの参加者は増えているが、内容はマンネリ化しており、先細りが心配である。
- ・老人クラブは、朝は見守り活動を行っている。
- ・高齢者のタブレット・パソコン教室など、高校生・大学生を講師として世代間交流を図る。
- ・小地域でサロンを広げる。
- ・町内からボランティアになかなか出てくれない。市職員のOBにも参加を頼みたいが、なかなかやってくれない。
- ・市からコミュニティ推進協議会に対して動員のお願いがちょっと多い。

地域福祉活動を進めるための体制づくりについて

- ・福祉部会をつくるのであれば、人材確保が課題である。役員ではない普通の人に呼びかける。推薦などでメンバーを集める。
- ・コミュニティ役員は平均 75 歳である。定年後も働く時代となっている。
- ・共働きの家庭も多い。
- ・団塊の世代を引っ張り出す。

地区懇談会の開催について

- ・コミュニティ推進協議会として地区懇談会を継続していく。参加者を各団体に募集してはどうか。
- ・参加を、誰がどう呼びかけるのか。まず各団体の会長に話し、推薦してもらってはどうか。
- ・地区懇談会が続くようにリーダー候補を何人か選ぶ。
- ・役員は日頃の活動で一杯であり、これからの担い手となっていく若い人の参加が必要である。
- ・各種団体の推薦によるメンバーを中心として、地区懇談会を行うのか。
- ・老人会、女性の会、民生委員、コミュニティ、PTA、消防団、町内会長、ボランティア団体に参加してもらい、8～10人で懇談してお互いに勉強する。
- ・若いお父さん、お母さんの参加を得るために、夜の集まりやすい時間に開催する。
- ・放課後児童教室指導員は、子育てのことなどについて詳しい。
- ・子育て中の人に来てもらいたいが、どう呼ぶのか。子育て世代は、子どもの勉強のことについては関心があるが、地域の情報は求めている。
- ・生涯学習のグループ、サークルからうまくリーダーを育てる。

【第3回地区懇談会でのご意見・ご感想(アンケート結果より)】

- ・横の連絡を密にしてほしい。
- ・問題点をあげているが、それは既にわかっているのではないかと。もっと進めるべきである。
- ・参加者が限られており、いつも同じ顔ぶれである。
- ・各団体の代表者の参加を求める。誰が中心となるか。